

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

R Alumni

立命館大学校友会

No. **273**
2018 JULY

100th

2019.つながる校友会、
ひろがる立命館

輝くひと

校友会設立
100周年
応援隊

お笑い芸人「サバンナ」

八木真澄さん（'97産社）

高橋茂雄さん（'98産社）



▶▶▶ 巻頭特集 ▶▶▶

『面白い』をつくる

R Alumni

りつめい No.273／2018年7月号

発行所／立命館大学校友会／年4回発行

発行人／村上健治

編集人／加藤美佐子

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216 Fax. 075 (813) 8217

URL: <http://alumni.ritsumeijp>

E-mail: alumni@st.ritsumeijp

ご連絡先の変更はこちらから▶



きっかけは、全て立命館に

1994年の学園祭で「笑いの宴」に参加した八木真澄さんと高橋茂雄さん。吉本興業の若手芸人と立命館大学の学生が笑いで共演するという企画で、漫才を披露。衣笠キャンパスの以学館1号ホールを笑いの渦に巻き込んだ。それを見ていた千原ジュニアさんが2人に声を掛けた。「吉本に入ったらいねん」

1980年代、吉本興業の「心斎橋筋2丁目劇場」で活躍していた若手芸人が関西を中心に人気を博していた。「2丁目劇場のトップだったジュニアさんにそう言われて、すっかりその気になりました」と高橋さんが当時を振り返る。2丁目劇場でのオーディションを経て、2人は在学中にプロデビューを果たす。

八木さんと高橋さんの出会いは立命館高等学校時代。柔道部の先輩と後輩という関係だった。八木さんが立命館大学に入学して間もない高橋さんに「遊びで漫才をやろう」と誘ったのが事の始まり。「あんな風にキヤーキヤー言われたい」とお笑いに興味を持った八木さんと、根っからのお笑い好きの高橋さんが、ネタを作り、当時、若者のたまり場だった京都市内の公園で漫才を続けたところ、いつしか100人を超える観客が集まるようになっていた。

今年で結成24年。「芸人には明確なゴールがない」と八木さんが芸事を生業にする難しさを吐露する。「定年もないし、上を見ても下を見てもキリがない。成功や失敗は自分で決める世界だと思います」芸人が天職でありたいと願う高橋さんも「いかに継続して、求められる人材になるかが大事だと思っています」と話す。

テレビ局のプロデューサーなど、仕事で校友と関わることも少なくないと2人はいう。『立命館』というキーワードで一気に距離を縮めることができ、そこに安心感が生まれます。この道につながる全てが立命館にあって、今も助けられている。立命館で本当によかったなと思います」

文：高原珠美 撮影：宅間國博



お笑い芸人「サバンナ」
やぎ ますみ
八木真澄さん（'97産社）



お笑い芸人「サバンナ」
たかはし しげお
高橋茂雄さん（'98産社）

輝くひと
105

■ PROFILE

NSC（吉本総合芸能学院）に通わず、在学中にデビューしたお笑い芸人コンビ。1994年結成、1995年プロデビュー。1997年「ABCお笑い新人グランプリ」第18回優秀新人賞、2009年「BGO上方笑演芸大賞」第4回大賞受賞。

立命館大学校友会報

リつめい JULY 2018
No.273

03 巻頭特集 『面白い』をつくる

02 輝くひと
お笑い芸人「サバンナ」
八木真澄さん 高橋茂雄さん

08 RITSUMEI INTERVIEW
公益財団法人 大和文華館 館長
あべのハルカス美術館 館長
浅野秀剛さん

12 立命館の研究者たち
映像学部 望月茂徳 准教授
「インタラクティブアートで、
介護や子育て、教育を楽しく、豊かに。」

14 「オール立命館校友会大会2018 in 仙台」予告
16 3.11復興への願い
17 2018年度 校友会幹事会報告
18 校友会未来人材育成基金
20 校友会設立100周年 Road to 2019 vol.09
21 校友会ネットワーク
行事報告
今後の行事予定

24 学生の活躍
26 キャンパストピックス
29 Club×Circle
30 INFORMATION
編集室から

※掲載内容は全て、2018年5月時点のものです。
デザイン・ディライツ広告事務所



文：高原珠美 撮影：西槻太一

生きている証を 刻み込む

ドキュメンタリー映画『リビング ザ ゲーム』監督
株式会社東京ビデオセンター ディレクター

合津 貴雄さん（'09文）



全 世界で注目を集めているプロゲーマーの生き様に迫ったドキュメンタリー映画『リビング ザ ゲーム』。海外で絶賛され、世界最大のドキュメンタリー映画祭で20万人が訪れるカナディアン国際ドキュメンタリー映画祭や、広州国際ドキュメンタリー映画祭に正式招待され、日本でも東京を皮切りに3月から全国各地で上映されている※1。監督は、テレビ番組制作会社「東京ビデオセンター」のディレクター、合津貴雄さん。自身にとって初の長編ドキュメンタリー映画だ。

合津さんが映画に興味を持ったのは、医学部を目指して浪人していたときのこと。「北野武監督の『HANA-BI』を観て、これまで普通に生きてきて味わったことがなかった感情が湧き上がってきて。価値観を揺るがすものが映画なんだと実感し、自分で映画を撮りたいと思うようになりました」。大学で映画を学ぶため文系に転向し、立命館大学文学部人文学科へ入学。入学後は自主映画製作を目的とした映画部に入り、映画に明け暮れる生活を送っていた。「生きづらさを感じながらも、誰かに告白できるわけでもなく、淡々と人生を歩んでいく人たちを描いたフィクション映画を撮っていました。今思えば、映画のまね事のレベルでしたが、そのころは『まね事ではない』と鼓舞していた日もあれば、自虐気味に『まね事。まね事』と言って手応えのなさをごまかしていた日もありました」。

卒業後に就職したが、「映画を撮りたい」という気持ちを抑えることができず、1年で退職。アルバイトをしながら、一般上映を目指し映画部の仲間と2年間で2本の映画を撮った。映画館を貸し切り、上映を行ったが、感じたのは自分たちの限界だったという。「大学時代は自分たちのコミュニティに収まって、内に向けた作品ばかりでした。社会に出てメンタリティーを外に向けてから撮り始めたつもりでしたが、出来上がった作品からは、小さな世界から抜け出せていないことを、まざまざと見せ付けられました」。

自分の殻を破り、もっと多くの世界を見たいと、合津さんは映画よりもスピードが速いテレビ番組制作の世界に27歳で飛び込む。アシスタントディレクターを経て、ディレクターとしてのデビュー作は、アニメ映画製作現場のドキュメンタリーだった。「30分ほどの番組でしたが、2カ月くらい密着しました。現場の人から『いつま

でいるんだ!』と怒られながらも、へばりつき、見えてきたものがありました。それは第一線で活躍する人の働き方や、ものをつくることに対する“情熱”と“冷静”のバランス。それが高い次元で保たれていた。そこで、自分の映画製作に対する考え方の甘さを痛感しました」。その後、合津さんは『リビング ザ ゲーム』の主人公となるプロゲーマーたちと出会う。「今でこそ『eスポーツ※2』として世間に知られるようになってきたゲームの世界ですが、僕が企画したころは、ファンにとってはヒーローでも、世間では社会のはみ出し者と見なされていた。本人たちも「ゲームで生きている」と世間に胸を張って言えない苦悩と葛藤がありました。そこに僕の人生がダブって見えた。そんな彼らがどうやって生きていくのかを撮りたいと思ったんです」。2014年、ドキュメンタリー映画の国際共同製作企画提案イベント「Tokyo Docs」への社内公募に合津さんは手を挙げた。企画が採択され、共同製作するパートナーも決まらないままフライング気味でキックオフ、かつ綱渡りで進められたというが、日本と台湾の共同製作として2018年3月、『リビング ザ ゲーム』の日本上映がスタート。製作に2年、総撮影時間380時間を88分に凝縮した映画に仕上がった。

しかし、合津さんにとって、この映画の上映が大きな喜びではなかったという。『夢が叶った!人生最高!』となれば良かったのですが、映画を上映することだけが自分の目標ではなかったと、今回改めて思いました。それよりも『面白かった』『分からなかった』など、自分の作品に対して感想をもらえたことが何よりも大きな喜びです」。

今後は、着実に面白いものをつくっていききたいと合津さんは語る。「ディレクターになったのは30歳のころ。それまで自分は『これで生きている』と胸を張って言えるものが何もなかった。今は『面白いもの』をつくることが自分の生きている証。欲を言えば、原点のフィクション映画もいつか撮りたい」と合津さん。第一線の情熱と冷静を持って、確実な一歩を踏み出した。

※1 2018年5月現在 ※2 「エレクトロニック・スポーツ」の略。コンピュータゲーム、ビデオゲームで行われる対戦型の競技の名称。

PROFILE

大学時代から自主映画の製作を始め、卒業後に一般の映画館で作品上映を行う。2012年株式会社東京ビデオセンター入社後、フィクションからノンフィクションに活動の場を移し、テレビの世界ではNHKを中心に情報番組の制作に携わる。『リビング ザ ゲーム』は監督初の長編ドキュメンタリーである。



巻頭特集 ▶▶ 『面白い』をつくる

新しい文化を担い、 文化を守る

株式会社NHKエンタープライズ グローバル事業本部
事業開発センター デジタル・映像イノベーション プロデューサー
和田 慎太郎さん (13 映像)

映

写機にセットされたフィルムが回り始めると、止まっていた画がまるで命を得たかのようにスクリーンに映し出される。

「映像ってすごいな」。一瞬でとりこになった。

映像との出会いをそう語るのは和田慎太郎さん。幼いころから映写技師に憧れ、高校生のとき、市の施設などで16ミリフィルムの映画を上映するボランティアに関わった。「市の視聴覚センターには、貴重な映像資料がたくさんありました。でも、保管状態が良くなく、ボロボロになっていて、『映像はこうやって簡単に失われていくんだ』と衝撃を受けました」。どうにかして映像を守れないか——。フィルム映像を復元する方法や映像のアーカイブについて記述された映像学部^{まい}の富田美香准教授（当時、現・国立映画アーカイブ主任研究員）の論文を見つけ、富田先生の下で学びたいと立命館大学映像学部映像学科に進学を決めた。

和田さんは現在、株式会社NHKエンタープライズでプロデューサーとして、放送番組のWEB制作や運営、プラネタリウムなどの半球形状のスクリーンに映し出す全天周映像（以下、ドーム映像）の制作に携わる。在学中、学芸員実習で仙台市天文台を訪れ、ドーム映像に興味を持った和田さんは、入社してからも「プラネタリウムは面白い」「ドーム映像は面白い」と事あるごとに上司や同僚に伝えていたという。また、仕事の傍ら、休日にはプラネタリウムや映像の施設に足繁く通い、研究会にも参加してドーム映像の研究を進めていた。

「ドーム映像は、映画やテレビの映像と全く異なります。特徴は魚眼レンズで撮影したような丸い映像になること、映像にゆがみが生じること。そして、映像が映し出されるスクリーンが大きいことです。主に放送番組の制作を得意としてきた当社には、ドーム映像の制作ノウハウがほとんどありませんでした。これはチャンスと思い、社内の開発事業として提案をしました」。企画が通り、満を持して試写に臨んだ和田さんだったが、結果は大失敗だったという。「当時は制作本部で自然科学番組のディレクターをしていました。撮りためていた自然の映像を使ってドーム映像をつくったのですが、社内試写では、映像酔いで気分は悪くなるし、思った色は出ていないしで、見るに耐えませんでした。『やっ

ぱり、ドーム映像は専門の会社をお願いしたほうが良いのでは』という空気になりましたが、僕は諦めませんでした」。和田さんはこの失敗を糧に、さらに研究を進め、「ドーム映像をつくりたい」と熱意を伝え続けた。

そんな和田さんの元に舞い込んできたのが、羽田空港国際線旅客ターミナルの「PLANETARIUM Starry Cafe」で上映するドーム映像の制作依頼だった。試行錯誤を重ねて完成した作品名は『海と星空の散歩道』。星空投映とデジタル映像を組み合わせた、社内初のプラネタリウムコンテンツだ。「このタイミングでなければ、期待に沿えるものはつくれなかった」と和田さんは振り返る。「コンピューターグラフィックスではなく、実写映像を使ったことがこだわりです。ドームスクリーンいっぱいに広がる色鮮やかな海中映像と、南の島の満天の星をゆったりと楽しんでもらえるコンテンツを目指しました」。

この作品では、監督としてディレクションもシナリオも和田さんが担当した。その軸になっているのは、映像学部で身に付けた「プロデューサー・マインド」だ。

『「総合大学で映像を学ぶ意味を考えなさい」。一般教養をおろそかにするな、という先生からの教えでしたが、それはとても重要なメッセージだと思います。『映像をつくる』には、必ず主題が必要です。映像はそれを伝える「手段」に過ぎません。自分は何に興味・関心があり、映像で何を描きたいのか。映像と人間に対する理解を深めるための一般教養も学びながら、映像分野の探究ができたことは、大きな意味がありました。知識もマインドも人とのつながりも、立命館大学で得たもの全てが、今の僕の礎になっています」。

映画の父といわれるフランスのオーギュスト・リュミエール、ルイ・リュミエール兄弟が映画を発明してから約120年。「映像は実体がなく幻のようなもの。でも、映像は“文化”です。先人が残してきた映像^{まい}を大切にしながら、新しい映像文化の担い手として邁進していきたい。そして、さまざまな分野で活躍している映像学部生と、現場で再会して一緒に仕事がしたい。これが僕の目標です」。

PROFILE

2013年、株式会社NHKエンタープライズ入社。情報文化番組、エンターテインメント番組、自然科学番組などの制作に関わる。2015年から現部署。立命館大学校友会幹事も務める。

〔りつめいインタビュー〕

浮世絵に魅せられて

公益財団法人 大和文華館 館長／あべのハルカス美術館 館長

浅野秀剛さん（'74 理工）



浮世絵と絵入版本の研究者で、国際浮世絵学会の理事長を務められている浅野秀剛さんは、大和文華館（奈良市）とあべのハルカス美術館（大阪市）の館長を兼任されています。これまで歩んで来られた道のりについて伺いました。

故郷は秋田県の能代市で、秋田県立能代高等学校出身なのですが、数学や理科の成績が比較的良く、理系に進もうと京都の国立大学を受験しました。正直、受かる自信はなく、結果はやはり不合格。京都で1年間浪人生活を送ることになりました。

当時の秋田県には美術館などの文化施設がほとんどありませんでしたので、京都で美術品に触れ、魅了されました。浪人生ながら時間があれば美術館・古社寺巡りをするようになっていました。

立命館大学に進学していた高校時代の先輩に誘われ、古美術研究会の研究成果の展示を見に学園祭へ足を運びました。このときの絵画のテーマが「浮世絵」。これが浮世絵との初めての出会いだったように思います。「せっかく来たのだから、わからないことがあれば聞いて」と先輩に促され、いくつか質問をしましたが、納得で

きる回答は得られませんでした。私が不満を漏らしたところ、それなら自分で調べたらいいいと言われたことを記憶しています。

大学受験を終え、複数の私立大学に合格した私は、学費が一番安かった立命館大学に進むことにしました。入学してす

ぐ、当然のように古美術研究会に入りました。前年の学園祭での出来事もありましたので、浮世絵を研究することにしたのです。それからの私の生活が、勉強よりサークルがメインになるまでに時間はかかりませんでした。当時、理工学部は衣笠キャンパスにありましたが、研究会の活動拠点である広小路キャンパスに通い、土・日は見学会と称して寺社や美術館巡りをしていました。3回生のとき、古美術研究会の会長になるように先輩から言われましたが、辞退しました。しかし、引退時期の4回生で立候補し、サークル活動を継続。卒業論文や就職活動に取り組まなければいけないという気持ちはなく、そも



鳥居清経「春信追善」中判錦絵、明和7年(1770)頃、ボストン美術館蔵
William Sturgis Bigelow Collection, 11.20128, Photograph © Museum of Fine Arts, Boston
今日本で開催されている「ボストン美術館浮世絵名品展 鈴木春信」に出品



文：高原珠美 撮影：津久井珠美 撮影協力：公益財団法人 大和文華館

そも卒業する気がありませんでした。研究を続けるため単位を少し残して留年するつもりだったのです。ところがゼミの教授から「物理を真面目に学ぶ気がない君のような学生が留年すると、他の学生の士気に関わるから、追試を受けて卒業しなさい」と言われ、しぶしぶ卒業することに。当時は就職口も多い時代で、教務室には職を斡旋する案内がありましたが、「だれが就職なんかするか」と、今でいうフリーターの道を選びました。

浮世絵の世界に飛び込む

卒業して1年半ほど京都の錦市場でアルバイトをしながら浮世絵の研究をしました。強がってはみたものの、今後どうやって社会と関わりながら生きていったらいいのだろうか、自分は何ができるのだろうかと初めて考え、悩みました。大学を卒業はしましたが、私には浮世絵しかなかったのです。自分なりに浮世絵の論文を書き、それが一応完成したので、東京に引っ越しました。東京では午後の時間がとりやすい築地市場で働きながら研究を続けました。そして、東京にある日本浮世絵協会（現・国際浮世絵学会）に入会。若い人が集まって開催している浮世絵の研究会にも参加をしました。

活動が続けていくうちに協会の機関誌『浮世絵芸術』の編集長と話す機会があり、自分の論文を見せました。すると、「手直しが必要だが、学会誌に載せる」と言われ、驚きました。独

学での論文でしたし、あんなものでいいのかなと多少不安もありましたが、編集長の指導の下、一生懸命に手直しをし、無事に掲載されました。

時期を同じくして、協会が編集する浮世絵百科事典をつくることになりました。出版社の社員が浮世絵研究会のメンバーで、仕事を手伝ってほしいと私に依頼があり、喜んで引き受けました。制作に本腰を入れるため、築地での仕事を辞めたところ、嘱託の編集者として働かせてもらえることになりました。当初は校閲担当でしたが、浮世絵の原稿や事典の下書きをする、あるいはそれ以上の仕事をする研究者が非常に少なかったため、原稿執筆も担当するようになりました。発刊までの4年間、週2回の休み以外は1日14時間の労働でした。もちろん楽しかったのですが、若くて体力があったから持ち堪えたようなものです。百科事典が完結したのは1982年、私が31歳のとき。完結後は仕事なくなり、困って編集委員長に相談したところ、学芸員の資格を取るよう言われました。通信教育で学び、1年かけて資格を取得。その間、友人と学習塾の共同経営や他の仕事をしながら、美術史の論文を書き続けていました。

34歳で千葉市教育委員会の中途採用試験を受け、学芸員の職に就くことができました。すでに結婚して子どもがいたので、やっとまともに給料をもらえると、妻とともに大喜びしたことを覚えています。千葉市立郷土博物館などへの配属を経て、

千葉市美術館の開設準備に携わることになり、1995年に千葉市美術館がオープンしました。学芸員の中で一番の古株だった私が開館記念展を担当し、大英博物館（英国）との国際共同企画で「喜多川歌麿展」を開催。大英博物館の学芸員ティモシー・クラーク氏と共編で、当時では珍しいバイリンガルのカタログもつくりました。

その後、管理職になりましたが、研究を続け、論文だけでも100本を超す量

を書いていました。そして50歳を過ぎてから博士号を取得。約23年間、公務員生活をした後、2008年に大和文華館の館長に就任。2013年からは翌年にオープンしたあべのハルカス美術館の館長も兼任しています。また、2014年に国際浮世絵学会の理事長に就任しました。23歳で退路を断たれ、浮世絵の世界に飛び込んだ私が、理事長の座に就けたことはうれしい限りです。

浮世絵の面白さ

浮世絵の特徴は、作品の数が多いことです。

版本、肉筆画、木版画を合わせて世界中で100万を超える数が残っているので、その中から自分の好きな作品やテーマを選んで研究することも魅力です。特に版画は、江戸時代の日本人にとって安価で身近なものでしたが、欧米人が価値を見だし、美術品として輸出が増えたことで価格も上昇しました。そのような経済活動と同じ次元で研究ができることも面白い点です。昔は研究がしにくかった春画も、今では堂々と研究ができるようになりました。立命館の校友で、国際日本文化研究センター特任助教（人間文化研究機構 総合人間文化研究推進センター特任助教 併任）の石上阿希さん（'08院文）は、女性で初めて春画研究者と公言した方だと思います。まだ春画に対する偏見が残っているのも事実ですが、浮世絵の大事な分野の一つとして扱われるようになってきて、私は良かったと思います。

人生を楽しむ

昨年、能代市立能代第一中学校の70周年記念事業で、中学生に向けた講演の依頼がありました。中学生に浮世絵の話は面白くなかろうと、フリーター時代の話を中心にしました。先生方はともかく、生徒には好評で質問が相次ぎました。「好きなことをそのまま頑張って続けていけば、なんとかなるものではないか？」という質問に対して、「私は運が良かっただけで、誰しものが必ずしも実を結び、大きな成果が出るとは限らない。しかし、結果はどうであれ、その行為自体はその人にとって人生の中の貴重な1ページになる」と答えました。そして「誰でも世間や社会と、自分の思いがうまくミックスしないことが起きる。そのときにどのように折り合いをつけるかが大切。バランスが難しいが、若い君たちは今後、そのような局面を何度も迎え



なまこ壁が美しい大和文華館の外観

るから、逆に楽しいのではないかと付け加えました。

これまで歩んできた中で、20～30代に考え方が大きく変わったことがあります。それは無責任に他人を全否定しないことです。どんな人でもその人なりの思いや気持ち、考え方、そして人生がある。受け入れ難いと思う人でも、自分の基準ではなく、相手の基準で物事を見てみる。その上で対話することが大切だと考えるようになりました。そうしないと、社会のバランスが取れなくなっていく。全部を肯定する必要はありませんが、それぞれを認めた上で、良い方向に行くにはどうするかを考えることが肝要だと思っています。

浮世絵の研究を始めた動機自体は貧弱でしたが、研究は私のライフワークです。昔は苦痛だった執筆も数を重ねることで、楽しめるようになってきました。浮世絵や美術についての講演などは、基本的にお受けするようになっています。浮世絵を「見る」楽しみと同時に、浮世絵を「調べる」楽しさを、みなさんにお伝えできればと思っています。

PROFILE

公益財団法人 大和文華館 館長
あべのハルカス美術館 館長
あさの しゅうごう
浅野 秀剛 さん

1974年理工学部卒業。千葉市美術館学芸課長を経て、現職。国際浮世絵学会の理事長も務める。奈良県北部校友会（立命若草会）参与。



「校友や一般の方を対象とした公開講座『立命文華会』（奈良県北部校友会主催、奈良市生涯学習財団共催）のコーディネートを担当し、年4回開催しています」

インタラクティブアートで、介護や子育て、教育を楽しく、豊かに。

インタラクティブ（双方向）メディアを使った体験型の作品「インタラクティブアート」。
望月茂徳映像学部准教授は、インタラクティブアートを高齢者介護や子育てに活用し、福祉や教育の場に「遊び」や「楽しさ」といった新たな価値を付加しようとしている。

双方向メディアを使った「インタラクティブアート」を研究

知りたい場所やわからないことを問いかけると、その声を認識して答えてくれる携帯電話や自動車のナビゲーションシステムのように、私たちの身の回りには「何かをすると、何かが起こる」インタラクティブ（双方向）なメディアが数多くある。コンピュータや音声認識、画像認識や各種センサーなどデジタル技術を駆使して音や光、映像で人の五感に作用するのがインタラクティブメディアの特長。「メディアアート」と呼ばれる分野にも、インタラクティブメディアを使った体験型のアートや作品「インタラクティブアート」が登場している。

望月准教授は、インタラクティブアートを高齢者介護や子育て、教育、障害者のケアなどに応用する研究を行って

る。日常生活の中の「ふつう」や「ちょっとしんどい」を「遊び」や「楽しみ」に変える。そんな魅力がインタラクティブアートにはあるという。望月准教授の研究には演劇の舞台美術、子ども向けの身体遊び、高齢者の健康促進など、実践に関する実績も豊富で、インタラクティブな映像を使った作品も少なくない。「テクノロジーの発達によって、いまや映像は映画やテレビのように現実と隔たったところにあるのではなく、生活と密接に重なり合うかたちで存在するようになりました。コンビニエンスストアのレジ、駅の自動券売機、スマートフォンなど、インタラクティブ映像は社会のいたるところで見られます」と望月准教授は話す。映像が「見る」だけでなく、「体験する」ものへと変わってきている今、「その意味や果たす役割ももっと多様に広がっていいのではないか」と指摘する。

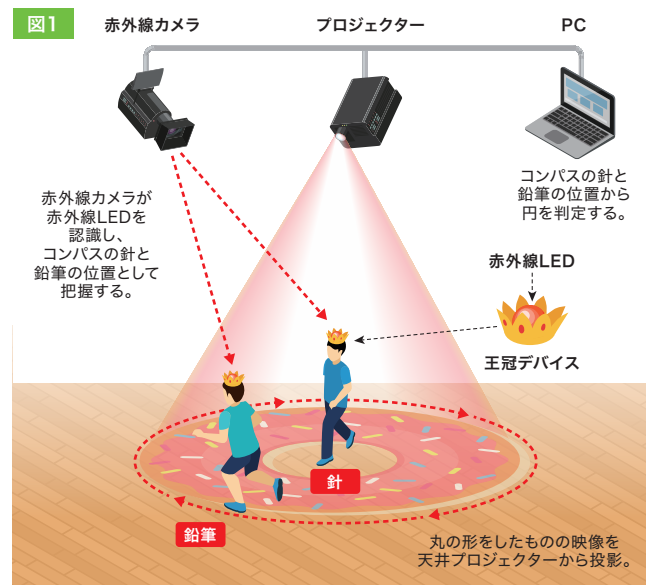
「映像によって一目瞭然に伝えられることで互いの理解を促し、コミュニケーションを活発にしたり、価値観を共有することも容易になります」。望月准教授は研究を通じてそうしたインタラクティブ映像の新たな可能性を探っている。

インタラクティブ映像によって体験がより豊かになる

インタラクティブ映像を活用した望月准教授の実績の一つに、学生と制作した「光のコンパス まるの王様、だーれだ!」がある。2013年、愛知県児童総合センターの「汗かくメディア賞」を受賞。館内で展示され、大きな反響を呼んだ。赤外線LEDを内蔵した王冠を被った2人のプレーヤーが一定距離まで近づくと、天井に据え付けた赤外線カメラが認識し、2人のプレーヤーのうちの一



「光のコンパス まるの王様、だーれだ!」。インタラクティブ映像を用いて、円の原理について体験を通して楽しく学べる。



をコンパスの針、もう一方をコンパスの鉛筆に見立てる。そこでコンパスの鉛筆役が針役を中心軸にしてその周囲をぐるりと回ると、天井のプロジェクターから足跡に沿ってドーナツやマンホール、時計といった丸い映像が投影される仕組みになっている（図1）。針役の周囲を等距離に歩けばきれいな円を描け、距離がずれば歪んだ丸になる。身体を使って円の原理を理解できるというわけだ。「机に座って学ぶだけでなく、こうしたインタラクティブ映像を用いることで、『遊び』を通じて楽しみながら『学び』も得られたらと考案しました」と狙いを語る。

また望月准教授は自身が考案したインタラクティブぬいぐるみ「ててちゃん」とインタラクティブ着ぐるみ「はぐちゃん」を使い、子どもたちが楽しく身体を動かすワークショップを定期的に開催しているが、最近、それにインタラクティブ映像を加えた新たな試みを始めた。

子どもたちのそばに映像モニターを設置し、子どもたちのダンスに合わせて物語が展開していく映像を流す。子どもたちが描いた絵をその場でスキャンして映像に取り込むなど、即時性も大切にする。「映像を組み合わせることで、物語の

映像学部
望月 茂徳 准教授

世界に入り込みながら身体を動かすことができます。インタラクティブ映像によって、飽きずに運動を続けられるというだけでなく、体験がいっそう豊かなものになります」とその効果を説明する。

テクノロジーをどう活用するか考える切り口になる

望月准教授は、研究だけでなく、立命館大学映像学部の授業でもインタラクティブ映像の可能性を追求している。自身が指導をする「びわ湖ホール舞台技術研修」は、滋賀県大津市のびわ湖ホールを舞台に、びわ湖ホールのプロのスタッフをアドバイザーとして交え、立命館大学映像学部と京都造形芸術大学、成安造形大学の学生が共同で舞台制作を行うプログラムだ。その中で映像学部の学生たちが中心となって映像やプロジェクションマッピングを制作し、舞台の背景に映写する演出に取り入れている。

インタラクティブアートは、コンピュータやICT（情報通信技術）、センサー、画像認識、音声認識などのテクノロジーと切り離して考えることはできない。「テクノロジーをどのように活用すれば社会



Profile

Shigenori Mochizuki

2000年 筑波大学第三学群基礎工学類卒業
2000～2007年 筑波大学大学院一貫制博士課程システム情報工学研究科 高性能計算・ビジュアルサイエンス研究室
2003年10月～2004年7月 オーストラリア国立大学数理科学研究科 客員研究員
2004年12月～2005年8月 独立行政法人情報処理推進機構 未踏ソフトウェア創造事業「天才プログラマー/スーパークリエイター」認定
2007年4月～2011年3月 立命館大学映像学部専任講師
2011年4月～現職

を豊かにしていくことができるかを考える上でも、インタラクティブアートは重要な切り口になります。インタラクティブアートを学ぶことで得た知識やスキル、視点を社会のさまざまな分野で生かしてほしいと願っています。

望月准教授は、映像学部を巣立つ教え子たちにもそう想いを託す。



「ててちゃん」と一緒に踊る子どもたちに合わせてモニターの映像で物語が展開する。



インタラクティブ着ぐるみ「はぐちゃん」（右）は、ハグされるとピカピカと身体が光る。触ったり、手をつなぐとかわいらしい鳴き声を発するインタラクティブぬいぐるみの「ててちゃん」（下）。

北海道・東北の食 酒 祭り で賑わう一日

～「杜の都」仙台でお会いしましょう!～



開催日 2018年10月20日[土]

会場

- 仙台国際センター〔メイン会場〕
- JR仙台駅中央改札広場〔一部企画〕

企画1 9:45～16:00

ウェルカム企画★

メイン会場前でおいしいおもてなし。北海道・東北のお祭りとともに、みなさんをお迎えいたします!

企画2 10:15～12:45

防災シンポジウム★

1000年に1度をわがことに一災後をともに生きるー

岩手・宮城・福島の前大関係者による「防災」をテーマにしたシンポジウムを開催。また、ミニセミナーや防災食(缶詰)の試食会もあります。防災・減災を考えるきっかけにしませんか。詳しくは本誌16ページ下部をご覧ください。

企画3 11:45～13:15

100年目への挑戦状

ちょっと今から大学の友達つくる

北海道・東北の食材を使ったご当地鍋を若手校友で囲み、立命館オリジナルの「リアル脱出ゲーム」を行います!

企画4 13:30～14:45

立命館アカデミック企画★

12:30～13:00 プレ企画

京都を拠点にする能楽師狂言方大蔵流の茂山千五郎家一門による狂言。プレ企画として、狂言装束着付けの実演もあります。

企画5 12:30～16:15

R Future Cafe★

学生出展企画や、「杜の都駅伝」応援企画、社交ダンスのパフォーマンスなどで会場を盛り上げます! 北海道・東北のご当地銘菓の振る舞いも!

企画6 15:00～16:15

食マネジメント学部 出張授業★

2018年4月にびわこ・くさつキャンパスに開設した「食マネジメント学部」の教員による、地域と食に関する出張授業を行います。

企画7 15:00～16:15

杜の都の立女さろん

「五感で楽しむ」をテーマに、天然石を使った数珠づくり、京都の「香老舗 松栄堂」による匂い袋づくりなど北海道・東北各地の魅力がギュッと詰まった体験企画を開催します! ご当地パフェもご用意しています。

企画8 15:00～16:15

経営学部校友会 第1回セミナー★

～世界に誇る日本の食文化～

株式会社美濃吉 代表取締役社長(10代目当主)の佐竹力総氏による講演会。

※経営学部校友会の企画ですが、どなたでもご参加いただけます。

企画9 16:30～18:30

総会・懇親会ーR Festivalー 全国の校友が一堂に集まる 大懇親パーティー

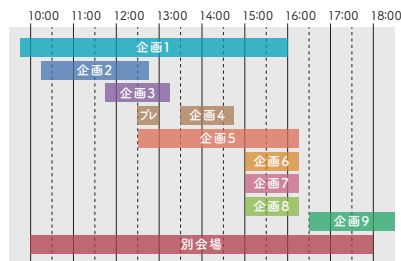
北海道・東北のお祭りや選り抜かれたおいしい食材、お酒、お米が盛りだくさん!

別会場 10:00～18:00

仙台駅企画★

立命館の最新の研究成果に触れる企画や立命館発祥の地「京都」にゆかりのある物産展を開催します。

▼当日のイベント予定タイムライン



★…一般市民参加型企画
上記企画は6月末時点の予定です。企画名称・内容・時間等が変更となる可能性がございますのであらかじめご了承ください。また、ご提供できる数に限りがありますので、品切れの場合はご容赦ください。

山形

岡崎 彩さん
(’04産社)

芋煮

秋の風物詩である山形県の芋煮会。「里芋×牛肉」をしょうゆで味付けした内陸風、「里芋×豚肉」をみそ味でいただく庄内風の2種類があります。地域で味わいに違いがあるのが面白いんですよ。両方味わっていただきたいですね!



北海道

片渕 綾乃さん
(’16法)

乳製品

酪農が盛んな北海道でとれる牛乳はとても濃厚で、さまざまなスイーツに使われています。中でも一押しするのがプリン! 濃厚な牛乳を使った甘すぎないプリンはとても口あたりが良く、ぜひ一度は食べていただきたいです。

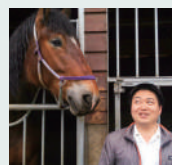


東北海道

土田 真也さん
(’05法)

ばんえい競馬

体重1トンを超える馬たちが、最大1トンにもなる重い鉄ソリを引いて、200mの直線コースで力とスピードを競う「ばんえい競馬」。世界で唯一、十勝・帯広で開催しています。ぜひ、大迫力のレースを体感してみませんか?



青森

本田 政邦さん
(’04経済)

ねぶた祭

「青森ねぶた祭」は毎年8月2～7日にかけて開催される青森市の夏祭りです。1年間待ちに待ったねぶたに浮き足立ってしまい、この時期の青森県人は気もそぞろ。仕事が手に付きません!



岩手

平野 桃子さん
(’12産社)

わんこ蕎麦

さぁどんどん♪ さぁじゃんじゃん♪ お蕎麦を椀に入れてくれるお姉さんの明るくリズムカルな声に合せておいしく楽しくいただきます。食べ放題なので、おいしいところでやめるもよし、自分の限界に挑戦するもよし!



宮城

大宮 大史郎さん
(’05法)

牛タン

仙台グルメの代表といえば、やはり牛タンです。肉厚でジューシーな仙台の牛タンは、一度食べたら夢中になること間違いなし。仙台の食文化の粋が詰まった牛タンは、お土産でも必ず喜ばれる逸品です!



福島

船橋 洋峰さん
(’98法)

日本酒

福島県は、昨年度、歴史と権威ある全国新酒鑑評会において、史上初の金賞受賞6年連続日本一を成し遂げました。「清らかな水」、「おいしい米」、「蔵元の高い技術と真心」が織りなす日本一の酒で、戊辰150周年を祝し乾杯!



秋田

杉澤 綾香さん
(’10法)

なまはげ

「泣ぐ子はいねが」でおなじみのなまはげ。そのふるさと、秋田県の大館市です。本番のお祭り「なまはげ祭」は2月に行われますが、市内のなまはげ館はもちろん、大館温泉郷では、なまはげ太鼓を演奏するなまはげにも会うことができます!



参加費 ●40代以上の校友、および同伴者…6,000円 ●20～30代の校友、および同伴者…3,000円 ●小学生以下…無料

参加申込について

北海道・東北にお住まいの校友

各都道府県の校友会窓口(校友会報「りつめい」273号に同封されている各都道府県用チラシ参照)に直接お申し込みください。

北海道・東北以外にお住まいの校友

6月下旬より校友会ホームページ、FAXにて申込受付開始の予定です。FAXでお申し込みの場合、専用申込用紙をお送りいたしますので校友会受付事務局(TEL075-365-7726)までお問い合わせください。

毎年、校友大会には校友会のイベント参加が初めての方、ご家族と一緒に参加される方がたくさんおられます。この機会にぜひご参加ください! ※託児室を開設します(事前申込制・使用料無料)



立命館大学校友会
ホームページ
<https://alumni.ritsumeiji.jp/>

食べて 飲んで みんな笑顔に ～東北3県をおいしく応援～

2017年度で終了した「東北応援ツアー」の趣旨のひとつでもあった「食べて復興支援」。
今回は、震災当時に甚大な被害を受けながらも復興に向けて前進している、
岩手県・宮城県・福島県の「食」「酒」に携わる校友にお話を伺いました。「オール立命館校友大会 2018 in 仙台」では、
3県をはじめとした東北の食べ物や飲み物をご用意しています。ぜひ、おいしさを味わいにいらしてください！

岩手 Iwate

岩手県校友会
水野 雅之亮さん
('65経営) 大船渡市在住



私の父が中心となり、1944年に地元の8軒の造り酒屋を合併し、「酔仙酒造」が誕生しました。地震当日は、仕込みを終え、タンクはお酒で満たされ、蔵人にとって最高潮の時期でした。ところが、地震によって起きた津波により、大正時代初期に建設された登録有形文化財の社屋をはじめ、全てが壊滅しました。現在、日本酒は復活したものの、焼酎は未だ本格的に販売できておらず、復活に向けて歩んでいます。道半ばです。震災当時、蔵の屋上にぶら下がった四斗樽は、社員にとって復興を促す励みとなり、新社屋の会議室に飾られています。



宮城 Miyagi

宮城県校友会
木村 長努さん
('77経済) 石巻市在住



1957年に鯨肉の缶詰製造から開始した水産加工品メーカー「木の屋石巻水産」です。震災で会社も工場も津波で全て失い、一時期は廃業を覚悟したほどでした。がれきの中から約40万個の缶詰を掘り起こし、うち22万個が震災前からの当社缶詰のファンや多くのボランティアの方の手によってきれいに洗われ販売され、いつしか「希望の缶詰」と呼ばれるようになりました。人と人との出会いにより支援の輪が広がり、復興の道筋ができました。石巻の土地の利を生かし、朝、水揚げしたお刺身でも食べられるほど新鮮な魚介類をその日中に手詰めで缶詰にしています。自然と共生し、人が真似できないことを味で表現していきたいと思います。



福島 Fukushima

福島県校友会
立谷 健二さん
('75法) 相馬市在住



家業は120年続くみそ・しょうゆ醸造業の「立谷味噌醤油店」です。家屋と工場は海から200mの場所にあったため、震災時の津波で全て失いました。震災後は同業者の助けを借りながら一歩、また一歩と再開し、2年後の2013年には工場を再建することができました。また、校友会や学生時代に所属した茶道部の先輩には、大量の支援物資を届けていただいたほか、たくさんのみそを購入していただきました。校友のみなさんの結束力の強さに温かさを感じ、人と人のつながりが何よりも財産と感じました。



東日本大震災
復興支援事業 ×
「オール立命館
校友大会
2018 in 仙台」
連動企画

防災シンポジウム 1000年に1度をわがことに —災後をともに生きる—

[日時] 10月20日(土) 10:15～12:45 (時間は予定)
[場所] 仙台国際センター 2階 橋

[1部] 10:15～11:45 シンポジウム
岩手・宮城・福島の校友のほか大学関係者による「防災」をテーマにしたシンポジウム。
[2部] 前半 12:00～12:20
ミニセミナーおよび防災食の試食会
京都の料亭「京料理 木乃婦」と宮城の「木の屋石巻水産」が共同開発する防災食(缶詰)を大会当日発表！参加者のみなさまに試食していただきます。
後半 12:25～12:45 シンポジウムパネリストへの質疑応答

参加費
無料

2018年度 校友会幹事会報告

2018年6月2日、立命館朱雀キャンパスで、2018年度「立命館校友会幹事会」が開催された。校友会三役(副会長・監事)、常任幹事、幹事の約300名が全国から集まった。

以下の議事に加え、参加者全員がグループに分かれ、校友会設立100周年に向けて議論されている「校友会活動ビジョン(案)」の検討報告を基に、未来の校友会活動について意見交換を行った。



報告事項

常任幹事会にて審議・承認された以下の事項について、報告が行われた。

- 立命館大学校友会名誉校友の選任について
- 立命館大学校友会顧問の退任および選任について
- 立命館大学校友会本部役員人事について
- 校友会活動ビジョンの策定ならびに校友会活動ビジョンに基づく具体的な行動の検討について
- 「オール立命館校友大会2018 in 仙台」大会概要について
- 「100周年記念オール立命館校友大会」の進捗について
- 校友会設立100周年記念事業の2017年度実施報告について
- 校友会未来人材育成基金の2018年度の具体的な募集推進活動について
- 東日本大震災復興支援特別事業の進捗報告について
- 2017年度の海外校友会の活動報告について

審議事項

- 立命館大学校友会推薦校友の承認について
- 2017年度事業報告および2017年度決算報告について
- 2018年度事業計画案および2018年度予算案について

2017 年度決算 (単位: 円)

●収支決算書(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

●経常収入の部	
科 目	決 算 額
会費収入	216,630,000
資産運用収入	532,854
組織強化事業収入	1,961,500
校友大会事業収入	5,390,595
広報事業収入	26,153,106
復興支援事業収入	180,000
その他の収入	53,504
経常収入合計	250,901,559

●経常支出の部	
科 目	決 算 額
組織強化事業支出	48,217,624
校友大会事業支出	39,406,642
広報事業支出	78,717,507
母校支援事業支出	14,872,598
復興支援事業支出	6,730,618
校友会記念事業支出	4,547,592
人件費支出	33,921,139
運営費支出	25,850,480
経常支出合計	252,264,200
経常収支差額	△1,362,641

●貸借対照表(2018年3月31日現在)

●資産の部	
科 目	決 算 額
現金預金	87,706,243
立替金	0
仮払金	0
前払金	426,175
未収金	0
定期預金	980,000,000
資産合計	1,068,132,418

●その他資金収入の部	
科 目	決 算 額
校友会基金積立金収入	5,434,947
前期末未収金収入	150,000
立替金回収収入	517,195
預り金収入	43,941,000
前払金収入	168,750
期末未収金	0
その他資金収入合計	50,211,892

●その他資金支出の部	
科 目	決 算 額
立命館大学基金積立金支出	0
その他の支出	90,000
前期末未払金支出	309,581
立替金支払支出	496,190
預り金支払支出	39,156,000
前払金支払支出	426,175
期末未払金	△20,043,558
その他資金支出合計	20,434,388
その他資金収支差額	29,777,504
当期収支差額	28,414,863
前期繰越収支差額	59,291,380
次期繰越収支差額	87,706,243

●負債の部	
科 目	決 算 額
未払金	20,043,558
預り金	62,250,000
負債合計	82,293,558

●正味財産の部	
科 目	決 算 額
定期預金	980,000,000
運用財産	5,838,860
正味財産合計	985,838,860
負債および正味財産合計	1,068,132,418

2018 年度予算 (単位: 円)

●収支予算書(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

●経常収入の部	
科 目	予 算 額
会費収入	216,600,000
資産運用収入	500,000
組織強化事業収入	2,100,000
校友大会事業収入	8,450,000
広報事業収入	26,100,000
復興支援事業収入	0
その他の収入	50,000
経常収入合計	253,800,000

●経常支出の部	
科 目	予 算 額
組織強化事業支出	49,830,000
校友大会事業支出	84,000,000
広報事業支出	83,890,000
母校支援事業支出	9,945,000
復興支援事業支出	4,460,000
校友会記念事業支出	10,000,000
人件費支出	34,300,000
運営費支出	30,685,000
経常支出合計	307,110,000
経常収支差額	△53,310,000

●その他資金収入の部	
科 目	予 算 額
校友会基金積立金収入	30,000,000
前期末未収金収入	0
立替金回収収入	0
預り金収入	45,000,000
前払金収入	426,175
その他資金収入合計	75,426,175

●その他資金支出の部	
科 目	予 算 額
校友会基金積立金支出	0
その他の支出	0
前期末未払金支出	20,043,558
立替金支払支出	0
預り金支払支出	40,000,000
前払金支払支出	200,000
その他資金支出合計	60,243,558
その他資金収支差額	15,182,617
予備費	0
当期収支差額	△38,127,383
前期繰越収支差額	87,706,243
次期繰越収支差額	49,578,860



私たちも「校友会未来人財育成基金」を応援します！

立命館大学校友会は、校友会未来人財育成基金の募集を通じて、先輩から後輩へ支援の輪を広げています。
校友はもちろん、校友会から支援を受けた在学学生からも寄付が生まれています。

循環型の後輩支援文化づくりを目指して

校友会の支援を受けた学生から、在学中に校友会未来人財育成基金への寄付をいただきました。

立命館大学校友会は、校友会未来人財育成基金の支援の輪を広げるために「大学や校友会から支援を受けた学生が、卒業後あるいは在学中に後輩学生たちへ寄付を行う循環型の後輩支援文化づくりを目指す」活動を行っています。

今年も卒業式の日、在学中に支援を受けて活躍した学生から「自分たちが支援を受けたように、後輩のために役立てて欲しい」と寄付の申し出がありました。
先輩から後輩へ、支援のバトンをつないでいきます。



東 克樹さん('18文)
三重県出身
硬式野球部で活躍。今春より
横浜DeNAベイスターズに所属。



日野 未奈子さん('18産社)
愛媛県出身
視覚障害者女子マラソンの伴走者として
リオ・パラリンピックに出場。



西井 克将さん('18文)
京都府出身
アメリカンフットボール部に所属。
体育会本部委員長として活躍。



山本 将太郎さん('18生命)
山口県出身
2017年度+R校友会未来人財育成
奨学金を受給。将棋研究会に所属。



中山 卓也さん('18薬)
新潟県出身
2016年度+R個人奨励奨学金を受給。

寄付実績 (2018年3月31日時点)

3,102
の個人・団体・法人から
165,236,800円

「オール立命館校友大会 2018 in 仙台」開催記念 「校友会未来人財育成基金」特別募集のご案内

「オール立命館校友大会 2018 in 仙台」の開催を記念して、校友会未来人財育成基金の特別募集を行っています。
校友一人ひとりが主人公となり、未来を切り拓く人財を育成する活動に、是非ご支援ください。

特別募集要項

今回の特別募集にお申し込みくださった方の情報（〔個人〕氏名、卒業／修了年、卒業学部／修了研究科、〔団体・法人〕名称）、お申込口数は、立命館大学と立命館大学校友会で共有のうえ、会報「りつめい」274号同封の「寄付者芳名録」に掲載させていただきます。

申込期間 2018年6月1日(金)～7月20日(金)

申込金額 【継続のご寄付】1口(1,000円)以上
【一括のご寄付】10口(10,000円)以上

個人・団体	継続のご寄付	インターネット	▶ 校友大会特設WEBサイトから、特別募集申込画面にアクセスいただき、お申し込みください。
		お電話	▶ 立命館大学校友会事務局へお電話ください。その後、口座振替の手続き方法をご案内させていただきます。
	一括のご寄付	インターネット	▶ 校友大会特設WEBサイトから、特別募集申込画面にアクセスいただき、お申し込みください。
		振込用紙	▶ 同封の「一括のご寄付用 振込用紙」に必要事項をご記入いただき、ゆうちょ銀行・郵便局・銀行等金融機関の窓口でお振り込みください。
法人	校友大会特設WEBサイトから問合せフォームをダウンロードし、必要事項をご記入のうえ「立命館 総務部 寄付事務局」までFAXにて送信してください。その後、手続き方法の詳細をご案内させていただきます。		

校友大会特設WEBサイトは6月下旬以降にオープン予定です。校友会ホームページをご覧ください。
立命館大学校友会URL <https://alumni.ritsumeiji.jp/>

税制上の優遇措置について

本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。

立命館大学
校友会
ホームページ



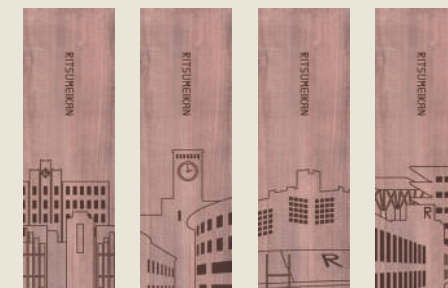
お問合せ先

[受付時間]土日祝を除く 9:30～17:00

■ 本特別募集に関しては
立命館大学校友会事務局 TEL 075-813-8216
■ 税制上の優遇措置に関しては
立命館 総務部 寄付事務局 TEL 075-813-8110

特別募集にお申し込みの方には、 立命館特製グッズをプレゼント！

今回の特別募集にお申し込みの方全員に、
立命館特製のオリジナル「葉」を
2種類プレゼントします！



どの組み合わせに
なるかは楽しみ！
プレゼントの到着を
お待ちください。

volume 09

若手校友の活躍

約36万人の校友のうち、4割を占める20～30代の校友。
100年前から今日に至るまで、若手校友の果たす役割は尽きない。

■校友会を組織した若きリーダー

京都法政学校が第1回卒業式を執り行ったのは1903年。それから16年後の1919年、母校の大学昇格を願う校友らによって、立命館大学校友会は組織された。事実上の設立大会には1期生から新卒まで70名の校友が参加。その日選出された3名の幹事のうち、永澤信之助(1期生)の当時の年齢は36歳、畝川鎮夫(3期生)は39歳、池田繁太郎(3期生)は34歳であった。若き校友たちの情熱が、校友会の礎を築き、ひいては母校の未来をも切り拓いたといえる。

■新卒幹事の誕生

1953年、校友会は会則を大幅に改正した。幹事の選任方法はそれまで通り毎年の校友大会における選挙としたが、新校友については「卒業の直後会長は新校友の中から若干名を幹事会の議を経て幹事に推薦できる」ものとした。以降、毎年20名前後の新卒校友が校友会の中で役割を担うようになり、緩やかに世代交代が行われていく。現在、新卒幹事は学部からの推薦となっているが、制度化当初は学友会の推薦のもとに人選を行っていた。

■リコネクト事業の始まり

現在、東京、関西、東海の3つのエリアを拠点に、20～30代校友による交流企画やスキルアップ企画などを行っているリコネクト事業。その発端となったのが、2007年に学園との共催で実施した「RITSUMEX'07 オール立命館デー in 東京」で

の若手校友向け企画「キャリア交流サロン」である。このプロジェクトのために立ち上がったグループが前身となり、リコネクト東京(2008年～)、リコネクト関西(2008年～)、リコネクト東海(2009年～)の活動が始まる。2010年度以降は本部事業に位置づけられた。



キャリア校友サロンを企画した若手校友(RITSUMEX'07)

■未来を担う若手校友たち

母校の規模の拡大に伴い、若手校友の比率は上昇する。多くの都道府県校友会では新卒校友歓迎会をはじめ、総会などの参加費減免、幹事登用、若手組織の立ち上げなどに取り組みしており、本部としても2014年よりこうした若手校友の参加促進を目的とした企画への補助を開始した。校友大会での若手校友向け企画は年々進化を遂げ、2017年の大会ではそれまでベテラン層が中心であった総会にも20～30代の校友が多く参加した。慣習にとらわれない自由な発想で校友会の魅力を発信し、新たなつながりを生み出す若手校友のネットワーク。

校友会の草創期がそうであったように、校友会の第二世紀もまた、若い校友たちの手に託されている。



2017年の校友大会では、京都水族館を貸し切って若手企画を開催

NEWS!

100周年応援隊に
サバンナのお二人が
就任しました!

注目の若手コンビとして、在学中に芸人デビューを果たしたサバンナのお二人。校友会設立100周年応援隊への就任にあたって、学生時代の思い出を語っていただきました。100周年特設サイトからご覧ください。

検索 立命館 校友会 100周年



校友会設立100周年応援隊
サバンナ
八木真澄さん
('97産社)

高橋茂雄さん
('98産社)



行事報告

2018年2月中旬～5月下旬に行われた
各団体の行事の一部を紹介しています。

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<https://alumni.ritsumei.jp>

都道府県校友会/ 海外校友会

2/16 36名
第15回大阪立命塾



2/18 200名
東京校友会 総会



2/24 23名
立命館大学シドニー校友会・
同志社大学シドニークローバー会
合同交流会



3/3 11名
マレーシア校友会 総会



3/4 6名
シンガポール校友会 総会



4/7 47名
オール立命館 in 北京
北京校友会・天津校友会・
APU中国華北校友会合同総会



地域校友会

2/12 66名
姫路立命会 総会



4/21 67名
愛知県校友会東三河会 総会



TOPICS

2017年度全国都道府県 代表者会議を開催

2018年2月24日、衣笠キャンパス諒友館にて「全国都道府県校友会 代表者会議」が開催され、全国の都道府県校友会から約220名が参加しました。昨年と同じく、今年もグループワーク企画が開催され、「各校友会のさらなる活性化へ向けた情報交換」「母校・立命館とのつながりづくりについて」と題して、2020年以降に各校友会がどのような団体を目指し、どのような活動を行っていくか、校友会未来人財育成基金の募集推進や就職・課外活動支援、そのほか立命館や学生とのつながりづくりについて活発な議論が展開されました。



TOPICS

今年も校友会 新卒幹事が誕生

2018年3月15日、朱雀キャンパスにて2017年度新卒幹事と校友会役員との懇談会が開催され、各学部から選出された新卒幹事および、校友会を代表して福元寅典副会長が出席しました。懇談会を通じて校友会活動について学び、4月21日の常任幹事会において幹事として選任されました。





4/21 佐世保比叡会 総会



5/12 兵庫県校友会 西宮支部 総会



5/19 奈良県校友会 北和立命会 総会



5/20 奈良県北部校友会 (立命若草会) 総会



職域校友会

2/13 茨木市役所立命館大学 校友会 総会



5/18 南都銀行立命会 総会



サークルOB・OG会

3/17 体育会準硬式野球部 OB会 総会



3/18 会計学研究会 OB会 総会



4/8 写真研究会 OB会 第25回総会



その他の 校友会グループ

2/11 創立55周年 古美術研究会



3/3 勇志会 卒業30周年記念大同窓会



4/17-4/19 69年卒立命ワングル 高野山同窓会



TOPICS

愛媛県校友会・大分県校友会が 相撲部を激励・応援

4月29日に宇和島市営闘牛場（愛媛県）で開催された「全日本大学選抜相撲宇和島大会」、5月3日に宇佐市総合運動場相撲場（大分県）で開催された「全国大学選抜相撲宇佐大会」に、愛媛県校友会と大分県校友会がそれぞれ応援に駆けつけました。一つひとつの取り組みに送られた熱い声援と、のぼりと法被のエンジと「立命館」の文字は、選手たちにとって大きな力となりました。なお、大分県宇佐市の大会では、本学校友の是永修治宇佐市長（'79法）からの激励もいただきました。



今後の行事予定

2018年8月～10月中旬に
予定されている総会等です（判明分）

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<https://alumni.ritsumei.jp>

校友会・グループ	日程	会場	問い合わせ先	
兵庫県校友会新人歓迎会&異業種交流会	8/4(土) 14:00～	ニューラフレア旧居留地	寺田 豊	terada@sonoda-u.ac.jp
沖縄県校友会 総会	8/4(土) 18:00～	ホテルロイヤルオリオン	島袋 健	090-7587-0858
静岡県校友会 総会	8/5(日) 14:00～	静岡クーポール会館	佐藤 友清	054-245-5612
建立会 総会	8/24(金) 18:30～	ヴィアーレ大阪	太田 和夫	090-1580-6056
福島県校友会 総会	8/25(土) 17:00～	ホテルハマツ	馬場 幸蔵	024-922-4964
立命館学園会計人会 総会	8/25(土) 15:00～	京都ホテルオークラ	上田税務会計事務所内	075-672-4361
岡山県校友会 第70回記念総会	8/26(日) 16:00～	アークホテル岡山	守屋 博司	090-3638-9784
広島県校友会 総会	9/1(土) 17:00～	メルパルク広島	足羽 真一	082-875-4526
大阪校友会 総会	9/7(金) 18:00～	ホテル日航大阪	立命館 大阪梅田キャンパス	06-6360-4895
ALL 立命館交流パーティー in北海道	9/8(土) 13:00～	立命館慶祥中学校・高等学校	立命館慶祥 中学校・高等学校 事務室	011-381-8888
島根県校友会 総会	9/8(土) 14:00～	サンラボーむらくも	和田 裕之	0852-21-9907
熊本県校友会 総会	9/8(土) 17:00～	鶴屋百貨店カーネーションサロン	飯田 俊之	090-1368-8809
新潟県校友会 総会	9/9(日) 14:00～	アートホテル新潟駅前	渡邊 剛	025-265-6596
文学部校友会 総会	9/29(土) 17:30～	京都ホテルオークラ	文学部事務室内	075-465-8187
千葉県校友会 総会	10/6(土) 13:00～	船橋グランドホテル	森下 功	047-449-4329
立命館清和会 総会	10/13(土) 16:00～	ウェスティン都ホテル京都	立命館中学校・高等学校 事務室	075-323-7111
オール立命館校友大会2018 in仙台	10/20(土)	仙台国際センター	校友会事務局	申込受付に関する お問い合わせ 075-365-7726 (株)JTB 京都支店
秋田県校友会 総会	10/20(土)	仙台国際センター	今野 謙	018-831-1250
山形県校友会 総会	10/20(土)	仙台国際センター	伊藤 邦男	023-643-6914

TOPICS

今年も「立命寄席」が 開催されました

4月21日、天満天神繁昌亭（大阪市）にて「第12回立命寄席」が開催されました。立命館大学落語研究会OBの桂塩鯛・桂小春團治両師匠によるこの催物は、今年で12回目を迎え、アメリカンフットボールや野球などのスポーツイベントと同様、立命館大学の校友同士が交流するイベントとして定着しています。当日は近畿2府4県のほか、東京などの遠方からも来場者を集めました。桂塩鯛・桂小春團治両師匠の巧みな話芸に、観客席からは何度も大きな笑いの渦が巻き起こり、最後は盛大な拍手で幕が下りました。





SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
077-561-3977

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

相撲部(女子)

「第6回国際女子相撲選抜堺大会」団体、個人ともに好成績

4月15日、「第6回国際女子相撲選抜堺大会」が行われ、相撲部(女子)が各階級で上位の成績を収めました。

団体戦：準優勝

軽量級：第3位 野崎舞夏星選手(スポ健4)

重量級：第2位 今日和選手(国関3)

無差別級：優勝 今日和選手(国関3)

第3位 野崎舞夏星選手(スポ健4)



軽量級・無差別級で第3位の野崎舞夏星選手(右)

ボート部

「第71回朝日レガッタ」男女ともに優勝

5月3～6日、滋賀県立琵琶湖漕艇場で「第71回朝日レガッタ」が行われ、ボート部は一般男子舵手つきフォアと一般女子舵手つきクオドルプルとともに優勝を飾りました。普段から練習している琵琶湖で開催された大会でアベック優勝を果たし、幸先の良いシーズンスタートとなりました。



トライアスロン部

「2018 Hong Kong ASTC Triathlon Junior Asian Championships」優勝

5月6日、香港・Plover Coveにて行われた、「2018 Hong Kong ASTC Triathlon Junior Asian Championships」において、トライアスロン部の中山菜々美選手(経営1)が優勝し、ジュニアカテゴリー(19歳以下)でのアジア女王へと輝きました。本大会は、ジュニアトライアスリートの各国の代表が集うアジア圏のジュニアレースでは最高グレードの大会です。本大会での優勝という結果により、ジュニアカテゴリー世界選手権シリーズグランドファイナル(9月・オーストラリアゴールドコースト開催)の日本代表にも内定しました。



優勝した中山菜々美選手(中央)

男・女子陸上競技部

「第95回関西学生陸上競技対校選手権大会」8年ぶり男女総合優勝

5月10～13日、西京極陸上競技場(京都市)で「第95回関西学生陸上競技対校選手権大会」が行われ、男・女陸上競技部が総合優勝しました。そろって制したのは8年ぶりの快挙です。出場した選手の活躍はもちろん、サポートした部員も含めた総合力で勝ち取ったアベック優勝です。



提供：月刊陸上競技

硬式野球部

「平成30年度関西学生野球連盟春季リーグ戦」4季ぶり38回目のリーグ優勝

5月20日、硬式野球部は甲子園球場で行われた「平成30年度関西学生野球連盟春季リーグ戦」近畿大学戦を4対1で制し、4季ぶり38回目のリーグ優勝を達成しました。この結果を受け、6月に開催される「第67回全日本大学野球選手権大会」に代表校としての出場が決定しました。

CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

将棋研究会

「第30回リコー杯アマチュア将棋団体日本選手権」準優勝

3月4日、リコー大森事務所(東京都)で、「第30回リコー杯アマチュア将棋団体日本選手権」が行われました。この大会は、学生王座戦の優勝チームだけが出場できる、アマチュア将棋の団体日本一を決める大会です。将棋研究会は、昨年に続いて学生代表として本大会に出場。社会人の日本一チームであるリコー将棋部と対戦し、3対4で将棋研究会は惜しくも準優勝となりました。



リコー将棋部と対戦する川又祐斗さん(政策3)

囲碁研究部

台湾佛光大学囲碁センターと交流対局を実施

4月14日、台湾から佛光大学囲碁センターの学生・教職員9

名が立命館大学を訪れ、囲碁研究部と交流しました。囲碁は東アジアを中心に発展し、現在も中国、台湾、韓国、日本などで広く親しまれています。佛光大学は毎年、国際大会を主催するなど囲碁の普及・発展に力を入れている大学です。今回、囲碁研究部が2017年に「第61回全日本大学囲碁選手権」で2年ぶり7回目の団体優勝をしたことから、訪問を受け入れる運びとなりました。当日は、囲碁研究部学生が金閣寺を案内、昼食の後、学生会館にて交流対局を行い、対局後も熱心な振り返りが行われるなど、活発な交流となりました。

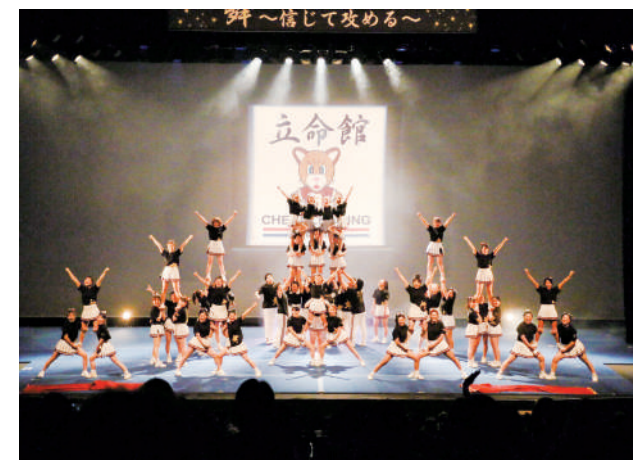


応援団チアリーダー部

第1回公演会「舞～信じて攻める～」開催

4月28日、大阪いばらきキャンパス(OIC)にて、応援団チアリーダー部が第1回公演会「舞～信じて攻める～」を開催しました。この公演会では、立命館小学校の児童、立命館宇治高等学校の生徒らとのコラボステージのほか、OBOGステージなども披露。多くの観客を魅了しました。

※関連記事 本誌29ページ「Club×Circle」に掲載





被災地のニーズを汲み取り、街づくりに生かす体験 ～大船渡まちづくりプログラムを実施～

3月24日、岩手県大船渡市と陸前高田市の被災地の視察や地域住民との交流を通じて課題やニーズを把握し、街づくりの課題解決策を提案する「大船渡まちづくりプログラム」の事後学習会を朱雀キャンパスで実施しました。本プログラムは、本学が昨年12月からまちづくりプログラムとして開始し、被災地を学生16名が訪問。「知る、考える、聞く、まとめる」をテーマに、地元の高校生や店舗を失った被災事業者ら約20カ所から当時の体験や課題を聞き、今後のまちづくりのあり方について考えました。



2018年度 立命館大学・大学院 入学式を挙行

4月2日、京都市勧業館みやこめっせにて、「2018年度 立命館大学・大学院入学式」を挙行了しました。大学に7,324名、大学院に1,315名の新しい仲間を迎えました。入学式は、式典と新入生歓迎セレモニーの二部構成で行いました。式典の前には、卒業生や在校生からのウェルカムメッセージを放映。歌手の倉木麻衣さん('05産社)や、元飛び込み選手の瀬戸(旧姓馬淵) 優佳さん('17スポ健)たちから、新入生たちにお祝いの言葉が贈られました。



新たなグローバルコモンズ、 Beyond Borders Plaza (BBP) 開設

4月2日、新たなグローバルコモンズ、Beyond Borders Plaza (BBP) が、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス(BKC)、大阪いばらきキャンパス(OIC)の3キャンパスで開設しました。BBPは、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、さまざまなBorderを超えてつながりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。授業外の時間帯に学生が利用できるスペースを提供し、自由な空間で仲間と共にグローバルな素養を高める中で、「多文化協働」できる人材を世界に輩出することを目指します。



大阪府が9分野にわたる 連携と協働のための包括連携協定を締結

4月11日、地域活性化、教育・研究、文化振興、子ども・福祉など9分野について、本学と大阪府がより一層連携・協働した活動を進めることを目的とした包括連携協定を締結しました。本学が自治体と包括連携協定を締結するのは滋賀県、福島県、北海道、京都府、熊本県に続き6件目です。このたびの協定により、具体的には、2025年国際博覧会の誘致に向けた連携や子どもの貧困問題に関する連携、教育の場を活用した行政PRに関する連携などを実施していく予定です。



松井一郎大阪府知事(左)、吉田美喜夫学長(右)

大連理工大学と 共同研究センター設立に関する協定を締結

4月17日、中国の大連理工大学と共同研究センター設立に関する協定を締結しました。本協定は、大連理工大学と本学が、ICT・医療・健康に関する研究分野の拠点となる「立命館大学・大連理工大学アクティブライフデザイン共同研究センター」を設立し、両大学間の共同研究をさらに進展させ、科学の発展に寄与することを目的としています。今回設立する共同研究センターを拠点として、今後、両大学による研究プロジェクトの立ち上げが予定されています。



郭東明学長(左)、吉田美喜夫学長(右)

ジャーナリスト・池上彰氏から経済学を学ぶ 経済学部特別講演「経済学って、おもしろい」を開催

4月19日、びわこ・くさつキャンパス(BKC)で、ジャーナリストの池上彰氏特別講演「経済学って、おもしろい」を開催しました。本講演は、経済学部1回生を対象とする基礎演習授業の一環であり、特別講演会第1部として実施されたものです。

池上氏は1回生へ向け、「大学生となった今、先生が言ったこと、テキストに書いてあることをそのまま信じるのではなく、本当にそうなのか、と疑い、自ら考える力が大切」と述べ、アダム・スミス、マルクス、ケインズ、フリードマンなど経済史の巨人に触れながら、経済学を学ぶ意味を伝えました。



池上彰氏

「立命館館賓」の称号を分林保弘氏に授与

4月24日、学校法人立命館は、分林保弘氏('66経営、株式会社日本M&Aセンター代表取締役会長・創業者)の立命館に対する卓越なるご貢献を称え、「立命館館賓」の称号を授与しました。本学は、分林保弘氏からのご寄付を受け、2019年9月に「分林保弘記念国際交流館(仮称)」を大阪いばらきキャンパス(OIC)に開設予定です。「分林保弘記念国際交流館(仮称)」は、約200名の日本人学生と留学生が生活と学びを共にする国際寮の機能を有するとともに、共同学習のためのスペースやカフェなど、OICで学ぶ全ての学生・院生のキャンパスライフを豊かにするための空間も設ける予定です。



森島朋三理事長(左)、分林保弘氏(右)

宮崎県、佐賀県と 「就職支援に関する協定」を締結

5月8日、宮崎県とUIJターン就職支援に関する協定を締結しました。この協定により宮崎県で就職を希望する学生に対して、インターンシップ機会の増大、企業・行政機関などの採用情報、就職セミナー・採用説明会などの各種就職支援イベントの開催や情報提供など、UIJターン就職支援・促進に向けた取り組みを宮崎県と連携して行います。また、佐賀県と4月19日付で「佐賀県と立命館大学との就職促進に関する協定」を協定書交換により締結しました。



鎌原宜文宮崎県副知事(左)、吉田美喜夫学長(右)

旧堂本印象邸で、学び、活動し、成長する

2018年春、衣笠キャンパス正門近くにある、学校法人立命館が所有する堂本印象画伯の旧邸宅（旧堂本印象邸）の茶室と母屋のリニューアル工事が完了し、学生の課外活動の拠点や正課授業の学びの場として活用をスタートしました。校友会の登録団体や地域の団体の方々へも開放しています。茶道研究部は、旧堂本印象邸での練習開始に先立ち、4月28日にお茶会を開催。リニューアルされた茶室に、近隣のお寺のご住職をはじめ、学内外の方をお招きし、お茶をふるまいました。全国大会でも活躍するかるた会は、今まで活動していた西園寺記念館に加え、よりキャンパスに近く、趣きあるこの場所で、さらに腕を磨くこととなりました。

【問い合わせ先】
（株）クレオテック
衣笠管理課
TEL：
075-465-8191



リニューアルした旧堂本印象邸

国際社会で新しい未来を創造する人材の輩出を目指す「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科 開設記念式典」を開催

5月17日、衣笠キャンパスで国際関係学部開設した「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科」の開設記念式典を開催しました。開設記念式典は、アメリカン大学との四半世紀に及ぶパートナーシップの土台の上に開設した国際連携学科の門出を祝うとともに、開設にあたってご協力・ご支援をいただいた関係者の方々への謝意を表明する場として行われ、文部科学省高等教育局高等教育企画課国際戦略分析官の林和彦氏をはじめ、来賓、学内外大学関係者ら約50名が参加。両大学が挑むこれまでにない新しい国際連携の取り組みへの決意を確認する場となりました。



パトリック・ジャクソン副学部長（左）、森島朋三理事長（右）

第13回「平井嘉一郎研究奨励賞」ならびに第2回「平井嘉一郎海外研究者支援奨励賞」の授与式を開催

5月17日、衣笠キャンパスで第13回「平井嘉一郎研究奨励賞」ならびに第2回「平井嘉一郎海外研究者支援奨励賞」の授与式を開催しました。

今回の受賞者（敬称略）

【第13回（2018年度）平井嘉一郎研究奨励賞】

- 原田弘隆（立命館大学法学研究科博士課程前期課程1回生）
- 日原拓哉（立命館大学法学研究科博士課程前期課程1回生）
- 大原祐太郎（立命館大学法学研究科博士課程前期課程2回生）
- 木村誠矢（立命館大学法学研究科博士課程前期課程2回生）
- 飯塚大航（立命館大学法務研究科法曹養成専攻専門職学位課程2回生）

【第2回（2018年度）平井嘉一郎海外研究者支援奨励賞】

- 徐文海（中国 同済大学 助理教授）



「いばらき×立命館 DAY 2018 一出会う、つながる、つくりだすー」開催

5月20日、大阪いばらきキャンパス（OIC）で大学と地域が交流するイベント「いばらき×立命館 DAY 2018」を開催しました。茨木市が市制施行70周年を迎えた今年は、茨木市共催のもとに本イベントを開催し、約16,000名の方にお越しいただきました。「観る」、「体験する」、「知る」、「食べる・買う」の4つのカテゴリーに分類し、約100の企画が展開しました。



クラブ・サークル等 学生団体の紹介

Club X Circle

01 Sustainable Week 実行委員会2018

未来のために、私たちができること ～Sustainable Week 実行委員会の挑戦～

環境や貧困といった人類共通の課題解決に向けた2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」に対し、びわこ・くさつキャンパス（BKC）を中心に活動を行っているSustainable Week実行委員会。2018年3月に行われた、朝日新聞社主催の「第1回大学



代表の切田澄礼さん（下段右から4番目）

SDGs ACTION! AWARDS」では、95件の応募の中、実行委員会が取り組む「宗教の違いを超えて食べることができるSDGsカレーの開発」がグランプリを受賞した。「受賞するとは全く思っていなかったのです、すごくうれしかったです。今回は多くのことを学び成長する機会にしようと思っていたので、思いがけないお土産ができました」と実行委員長切田澄礼さん（生命3）。持続可能な社会の実現に向け、また一歩、成果を残した。

現在は、10月に開催予定のSustainable Week2018に向けた企画検討の日々。企画検討の傍ら、学生向けイベントを実施し、SDGsについて考えるきっかけ作りにも取り組んでいる。実行委員会は、「Sustainable Weekを、社会の需要も満たしつつ、参加者が楽しめるような取り組みにしたいと日々精進しています。2018年度も誰もが楽しく、身近にSDGsを学ぶことができる企画にしていけるので、ご参加お待ちしております」と意気込みを語った。

02 応援団チアリーダー部 PeeWeeS!

応援で感動と一体感を！第1回公演会「舞～信じて攻める～」開催

世界で日本はチアリーディング競技の強豪国として知られている。昨年11月、28カ国が参加した「第9回チアリーディング世界選手権大会」では、日本は男女混成部門で4年ぶり7度目の優勝を飾り、また一つ強豪国としての地位を確立した。「ピラミッド、ダンス、モーション、アーム、パートナースタutz、タンブリング、ジャンプ」と呼ばれる7つの基本動作から成るチアリーディング競技は、選手同士の信頼関係が大切であり、うわべだけの関係では決して良い演技はできない。選手一人ひとりがチームのために“何”をすべきかを常に考えてパフォーマンスすることが、チームとしての完成度を高める。

チアリーディング競技と体育会クラブの応援活動に取り組む応援団チアリーダー部PeeWeeS!は、「Beat All」というスローガンのもと、現在54名の部員たちが学生主体で活動している。目指しているのは全国の舞台で頂点に立ち、日本一感動を与える応援を披露することである。

2018年4月、PeeWeeS!は、世間でなじみのある応援活動ではなく、競技活動をメインとした創部初の公演会「舞～信じて攻める～」を開催。「競技チアを行うPeeWeeS!をたく

さんの人に知ってもらい、地域の方々に愛され、体育会クラブとはこれからも互いに切磋琢磨できる関係づくりを実現したかった」と話すのはキャプテンの小高舞奈選手（経営4）。前例のない中、4回生を中心に企画を進め、現役学生、OBOGをはじめ立命館小学校、立命館宇治高等学校のチアリーディング部員らが約800名の観客の前に感動のステージを披露した。「舞～信じて攻める～」には一人ひとりが主人公であり、輝いていられるようにという想いが込められているという。全国の舞台で輝くPeeWeeS!にこれからも注目したい。

Beat ALL

一、謙虚さと誇りを持ち、
全ての人に感動を与える

一、どんな困難にも打ち勝ち、
全員で大きく飛躍する

一、すべての活動に
全力を尽くし
PWS!に伝説を残す



叙勲2018年春	■瑞宝双光章	褒章2018年春	船見順氏（'82経営） 滋賀県大津市教育委員会教育長	訃報
■旭日重光章 国井正幸氏（'70文） 元農林水産副大臣	上原良夫氏（'58理工） 元国鉄大阪鉄道管理局 構造物検査技師	■黄綬褒章 村田吉弘氏（'74産社） 菊の井代表取締役	妻崎博之氏（'83法） 株式会社広島銀行専務執行役員	森金次郎氏（'50文） 元学校法人立命館監事、 元立命館学園会計人会会長
■旭日双光章 小山喜三氏（'59経済） 兵庫県商店街振興組合連合会 副理事長	土佐順貞氏（'67文） 元公立小学校校長	■藍綬褒章 安田徹氏（'67法） 保護司	國澤有通氏（'84文） 富士通株式会社執行役員	渡邊申孝氏（'58経済） 元学校法人立命館評議員、 立命館大学校友会顧問
野々村康吉氏（'61理工） 元高砂市議会議員	坂本太一郎氏（'71法） 元京都市消防正監	鐘井輝氏（'76法） 元中小企業診断協会県支部長	豊永久氏（'85産社） 三交興業株式会社取締役社長	茶谷良明氏（'60法） 立命館大学兵庫県校友会 西宮支部支部長
田中俊衛氏（'65法） 元彦根市議会議員	■瑞宝単光章 林戸義雄氏（'72産社） 元日本郵政公社職員	就任（内定含む） 山内修一氏（'76法） 京都府副知事	星原直明氏（'85理工） トヨタ紡織株式会社常務役員	村山良雄氏（'69産社） プロ野球オリックス球団 常務取締役連盟担当
山元勉氏（'69理工） 京都府養鶏協会長	■瑞宝単光章 藤井洋治氏（'73法） 警察功労（元京都府警視）	大西哲郎氏（'78経済） 名鉄観光サービス株式会社 代表取締役社長	木村均氏（'86経済） ケイミュー株式会社 代表取締役社長	
■旭日単光章 田中稔氏（'72理工） 元タナカテック代表取締役	■瑞宝双光章 津田省三氏（'76経済） 消防功労（元大阪市消防監）	小山正彦氏（'79経済） 株式会社プリンスホテル 代表取締役社長	当摩武彦氏（'97国際） 株式会社ゼクウ代表取締役社長	
■瑞宝中綬章 松本久氏（'70法） 元熊本家裁所長	■瑞宝単光章 福知憲太郎氏（'72経営） 警察功労（元京都府警視）	高橋祥二郎氏（'79経済） 滋賀経済同友会代表幹事	桐田真人氏（'04経済） 滋賀県大津市議会副議長	
■瑞宝小綬章 矢作勝美氏（'65法） 元京都市教育委員会教育長	■瑞宝単光章 松木徳雄氏（'74法） 警察功労（元大阪府警部補）	西尾信也氏（'81経営） 株式会社大和キャピタル・ ホールディングス 代表取締役社長	吉村賢一氏（'69産社） 鹿児島県始良市議会議員選挙	
田中達彦氏（'66法） 元京都府五条警察署長		小谷峰藏氏（'82経営） シライ電子工業株式会社 代表取締役社長	松本篤氏（'77理工） 香川県小豆島町長選挙	
			二宮隆久氏（'78法） 愛媛県大洲市長選挙	

3年がかりで編集に関わってきた、母校桃山高校の創立100周年記念誌が完成した。仲間と喜びを分かち合い、心地よい達成感を味わったが、1文字誤植があった。それも編集部員の名前の1文字で、何度も見直していたのにと信じられない思いである。今までの人生の中で、消してしまいたいと思う失敗が3回ある。その内の1回は始末書を書いた。あとからいくら考えても、なぜそんなことをしたのか、その時の自分の心がどうしてもわからない。誤植は、出版物が活版印刷中心の時代には、執筆時に似た文字と間違うことが多かったが、ワープロやパソコンの文章ソフトによるものが主流になってからは、誤変換や辞書検索の選択ミスによるものが増加してきた。校正が一層重要になるわけだが、校正で完全に誤植をなくすことは実は難しい。文章執筆時にこそ誤字のないように、常に平静な心で日々を生きたいと思う。（加藤美佐子）

編集室から

先日、何気なく読んでいた本の中にふと気に留めた言葉がありました。それは「名経営者は叱り上手」。卒業して早20年以上が経ちましたが、若い頃はよく上司に叱られていたことを思い出しました。昔気質な方で、かなり理不尽な叱られ方をしたこともありましたが、あの時はどうしたら叱られずに済むかということを常に考え、目配り、気配り、心配りの仕方が大いに鍛えられたのも事実です。振り返ると、自分が一番成長していた時期とも重なり、ある意味上手に叱られていたのかもしれない。最近、「厳しく叱る」ということが少なくなっているようですが、人が成長していく過程、特に若い時こそ真剣に叱られる経験が人間を一回り大きくするのに必要ではないかと改めて感じた次第です。（森力）

来年度は校友会100周年。ひとつの節目である。広報委員会ではWebを含め、どのようなメディアで、誰に何をどのように伝えていくのか、今まさに検討しているところだ。私自身、ずっと雑誌づくりをやってきて、発信者が伝えたいことが、読み手、受け手にきちんと届いているかが気になる。そのうえで、発信者の自己満足だけでなく、求められている情報もそこにあるのか、読み手の立場にたつての視点が大切だと思う。広報の展開は、老若男女、海外の同窓生も増えた今、多チャンネルが必要になってくるのだろう。メディアにもいろいろあるが、一番優れたメディアは人だ。熱き、仲間思いの立命人たちが、ともに語り合う場をどんどんつくりたい。（山岡祐子）

“インバウンド”という響きが随分なじんできたように感じますが、京都の海外観光客の多さには驚くことがあります。錦市場や清水道を通る多くが海外の方、ホテルやゲストハウスも想像以上のスピードで増え続け、2030年にはどんな様子になっているのだろうと漠然とした不安を感じたりもします。しかしながら、現実的には突然2030年を迎えるはずもなく、今の連続性、日々の積み重ねでしか現れません。だとすると「日々、瞬間瞬間、私自身が大切に生きることから始めよう」というところに戻ってくるのだろうなとしみじみ。「未来を信じ、未来に生きる」——大好きな懐かしい言葉ですが、4人の子を持つ母としても、未来に続く日本・世界・地球であって欲しいと切に願う最近であります。（安井亜希）

BOOKS FOR BOOKS

～立命館の本活～

2013年4月から2018年4月末までに**4,935名**の方々から**242,618冊**の本をお送りいただきました。誠にありがとうございます。
引き続き、校友のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

REBORN

☞ どのような仕組みですか？

☞ 以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

- ISBNのない本
- 見本
- 百科事典
- コンビニコミック
- 個人出版の本
- マンガ雑誌
- 一般雑誌

※上記の本が混入していても、費用の負担などは生じません。

☞ 手続きの方法は？

①書籍を段ボール箱に入れる。

②電話(バリューブックス ☎0120-826-292)かWEBで集荷を依頼する。

※お電話の場合は右の「申込書」をキリトリ線に沿って切り取り、必要事項をご記入のうえ段ボール箱に入れてください。
※5冊以上であれば送料は無料です。

詳しくは **WEB** をご覧ください。

立命館の本活

検索

お問合せ先

学校法人立命館 総務部 寄付事務局 TEL：075-813-8110（平日 9:30～17:00）

お申込みに関してのご注意

買取額は市場価格等を考慮して（株）バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや値段がつかないこともございます。お申込みに際しては、その点をご理解くださいますようお願い申し上げます。

ご記入日

年

月

日

送付段ボール箱数

箱

学校法人立命館 理事長 森島朋三 殿

学校法人立命館の設置する学校の教育および研究の充実のために本物品の売却代金を寄付します。

フリガナ

お名前

生年月日

西暦（

）年（

）月（

）日

ご住所

（〒

-

）

電話番号

E-mail

@

寄付目的

立命館学園の図書充実のため

本学との関係(任意)

☐ 卒業生

卒業 西暦（

）年

卒業校・学部（

）

☐ 教職員

☐ 元教職員

☐ 在校生父母・卒業生父母

お子様の在籍校・卒業校（

）

今後、本学の各種行事等のご案内を差し上げる場合がございます。 ☐ 案内等を希望しない希望されない方は右記にチェックをしてください。

事務局記載欄

買取価格

円

団体ID 98

<キリトリ>

立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

特別展

世界報道写真展2018 —WORLD PRESS PHOTO 18—

世界報道写真財団（本部：オランダ）が毎年開催している「世界報道写真コンテスト」入賞作品約150点で構成する世界規模の写真展。

※会期中、関連企画を開催します。詳細はホームページ、Twitterをご覧ください。

アダム・ファーガソン、オーストラリア、ニューヨーク・タイムズに提供 2017年9月21日

第116回 ミニ企画展示

ミュージアム・この1てん「ガマ（壕のくらし）」

6月23日は沖縄県制定の沖縄戦犠牲者を慰霊する日です。これにあわせ、2016年に寄贈された奥田豊氏の旧蔵コレクションから、沖縄出身の儀間比呂志氏（1923-2017）が描いた沖縄戦をテーマとした作品を展示します。

儀間比呂志（1979年頃）

第117回 ミニ企画展示

外山重男—ある兵士の日常—

日中戦争時に従軍した外山重男氏が、戦地から日本の家族の元に書き送った軍事郵便はがきを中心に展示します。本展は昨年、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学で開催された展覧会に、新たな資料を加えて紹介するものです。協力：嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、京都・大学ミュージアム連携

敵情を監視する兵のスケッチ（1938年）

開館時間

午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）

休館日

月曜日（ただし、7/16・9/17は開館）、7/17（火）、8/12（日）、9/18（火）、9/1（土）～9/7（金）は夏期休館

観覧料

一般400円（350円）／中・高校生300円（250円）／小学生200円（150円）
（ ）は20名以上の団体料金／障害者手帳等をお持ちの方（介助者1名を含む）は無料
※特別展「世界報道写真展」期間中は、一般観覧料のみ500円になります。
（団体料金適用はありません）

立命館大学 国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL.075-465-8151 FAX.075-465-7899
URL▶http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum

立命館大学国際平和ミュージアム
常設展 特別展
校友招待券
有効期間
2018年9月23日（日・祝）まで
（申込・券購入無料）
校友会「いつめい」
No.273

30 リつめい JULY 2018